



森の塾

森林・林業の大切さを伝える 8人の先生が参加し学ぶ



「森の塾」に参加された先生方（監物台樹木園）

8月23日、監物台樹木園において熊本県内の小学校教諭を対象に「森の塾」

を開講しました。これは、先生に森林・林業について学んでいただき、学校での森林環境教育に活かしていただくことを目的としたもの。

14回目となる今回の塾には4校の小学校から8人の先生の参加がありました。はじめに、指導普及課長が「生物多様性と森林について」の講義を実施。続いて、園内の「みどりの交流館」で生物多様性を考えるカードゲームを行いました。先生たちは、普段子どもたちと接していることもあり感受性豊かで、ゲームを楽しんでいました。中でも、緑の普及係長お手製の「シカカード」は、森林とシカ、野鳥などの関係が楽しみながら知ることができ「ぜひ学校でも使ってみたい」と、好評でした。

その後2班に分かれ、「森の生き物観察」として、測量機器を使い正確に10四方のプロットを設定。毎木調査や材積測定、樹木にいる生き物の観察を行いました。最後に、プロット内の土を採取し、少しずつふるいにかけて、土の中にはどんな生き

物がいるかの観察を行いました。約10種ほどの土壌生物が観察されましたが、プロットにより生息する生物にも違いがあり、環境によってそこに住む生物の多様性にも大きな違いがあることが分かりました。

その後も、子供たちが樹木や森林に親しみを持ってくれるような手法を取り入れたゲームやクイズを実施。先生たちは、「どうしたら子どもたちに森林や林業の大切さを伝えることができるか」問題意識を持って取り組んでいる様子が伺えました。最後に全員で意見交換を行い、内容盛りだくさんの「森の塾」を終了しました。

（担当：指導普及課）



「シカカードゲーム」に夢中な先生たち

自署の名山



屋久島森林管理署

業務課 管理係

日比野 誠也

屋久島は、九州最南端の佐多岬から南方約60きに位置し、面積約540平方きの島内の9割が森林に覆われており、九州最

『モッチョム岳』標高940㍎ 登る厳しさは屋久島一

高峰の宮之浦岳（1936㍎）

をはじめ1000㍎を超える峰々が連なり、「洋上アルプス」とも呼ばれています。今回は屋久島の山から、前岳の一つ「モッチョム岳」を紹介します。

屋久島東南部を車で走っていると、森の中からそそり立つ巨大な岩山が目にとまります。これが「モッチョム岳（本富岳）」で古くから山参りが行なわれてきた霊峰で、山頂付近一帯は世



上：麓から望むモッチョム岳の花崗岩の大岸壁

下：モッチョム岳山頂より望む太平洋の大海原

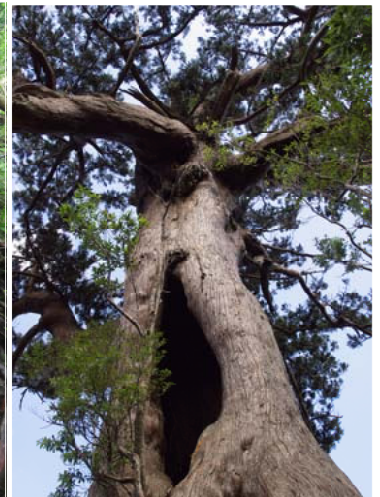
界自然遺産にも含まれています。モッチョムという名前は、「陰陽」を意味しているものと思われる。

登山道、「タナヨケ歩道」は、正面から見える山の裏側を回るように開かれており、標

高は940㍎とそれほど高くはないものの、険しく急な山道を700㍎近く登る厳しさは、屋久島の山の中でもピカイチ……ルートの大半は、ほとんど人手が入っていない森の中を進みます。途中、樹齢3000年とされる万

代杉やモッチョム太郎といった屋久杉が出迎え、苔むした原生的な森林を歩くということも、屋久島の登山の醍醐味です。モッチョム岳山頂よりも標高の高い神山展望台まで登れば、木々の隙間からは、北側に連なる花崗岩の大岩壁が顔をのぞかせています。

上を見上げて岩間に青空が見えたら最後はあと一息。ロープを使って登りついた山頂からは、眼下に広がる太平洋の大海原と



樹齢3千年とされる万代杉



険しく急な登山道

屋久島南部の集落が一望できます。登りはおおよそ3時間前後、山頂でのんびりしたいなら、往復6時間以上をみたほうがいいでしょう。屋久島は雨が多く、天気予報を裏切ることも多々あります。屋久島の山へ行かれる際は、雨に降られることを前提に装備が必要です。

縄文杉や宮之浦岳など数々の見所を持つ屋久島ですが、登山が好きなら是非一度は、険しい山道と山頂からのモッチョム・ビューを体験してみたいかがでしょうか。

平成22年度事業計画など審議

綾の照葉樹林プロジェクト
(綾川流域照葉樹林帯保護・復元計画) 第12回連携会議が綾町役場会議室において開催。

会議では、①平成21年度の事業実施報告②平成22年度の事業計画(案)について審議がされ全会一致で承認されました。

このほか、平成20年度設置された「地域づくりワーキンググループ」から、綾の照葉樹林プロジェクトの活性化と地域づくりのあり方についての検討結果が綾町長に報告されました。また、今年5月に開催を予定していた「国際照葉樹林サミット」を、口蹄疫による非常事態宣言のため延期したことから、来年



熱心に審議する参加者＝綾町役場

度の開催に向けて準備委員会を設置し検討することになりました。
(担当＝計画課)

耶馬溪湖畔祭で虫かご作り

【大分西部森林管理署】「森と湖に親しむ旬間」行事の一環として、「耶馬溪ダム湖畔祭り」が開かれ、当署は杉板仕様の虫かご作りを指導しました。昼前から子供たちが続々と集まり始め、準備した100個の虫かごはまたたく間に無くなりました。



虫かご作りに汗を流す子供たち＝大分西部

子供たちは汗だくで取り組み、虫かごが完成すると、嬉しそうにお礼を言って、カブト虫狩りを楽しんでいました。

国有林を活用した森林セラピー

私は、木材素材生産業を営んでおり、職業柄、人に「癒」を与えてくれる森林資源を後世に残す取り組みが大切だと思う一人です。

「広大な森林資源を活かした地域づくりをやりたい」これが森林セラピー基地認定に向けた取り組みの発端でした。

セラピー基地の中心は、国有林内にある猪八



定していて、世界有数のコケの宝庫で、300種程度が確認されています。

重溪谷です。猪八重溪谷は、広大な広葉樹林の中に20数カ所の滝群が点在し、温度、湿度が安

「延岡アースデイ」草刈りに汗

【宮崎北部森林管理署】7月24日、延岡アースデイ実行委員会主催で、延岡市五ヶ瀬川堤防の遊歩道約1・5kmの草刈りを行いました。当実行委員会は、旧延岡営林署が在署していた当時に発足。延岡市はもとより、五ヶ瀬川流域などの緑化や環境保全を目的にボランティア活動も植樹や下刈りなどの活動が行われています。今回は、五ヶ瀬川の清流や景観に映えるように、平成21年3月に植えられた河津桜300本の下刈りも兼ね



草刈りに汗を流すボランティアの皆さん

ねており、約30の登録団体から約150人が参加しました。当署からもボランティアとして8人の職員が汗を流しました。

北郷町森林セラピー推進協議会会長

福岡浩一さん

私達は、平成19年に宮崎南部森林管理署をはじめ、各行政機関と一体となって「北郷町森林セラピー推進協議会」を設立し、森林セラピー基地認定に向けた取り組みを開始し、森林浴効果の科学的な実験を行い、平成二十年森林セラピー基地の認定を受けたのです。いま、私達の活動は、森林ガイドや森林セラピストの養成を行い、基地を訪れる方々に「癒し」を提供していくための環境整備を行っています。

さらに、林業活性化に意欲的な町内の有志で作る「北郷地区林業研究グループ」のメンバーと共に、「癒しの森づくり」をテーマに、森のコンサートなどの交流プログラムや、児童生徒のための環境学習の場づくりなどに取り組んでいます。
このような国有林地内を活用したセラピー基地の整備により、毎年ここを訪れる人が増加しています。貴重な植物の盗掘などの心配もありますが、今後、安全確保や自然の保護を目的とするような活動などに結びつけて行くことが必要だと考えています。

児童養護施設児童に木工教室

【熊本南部森林管理署】8月17日、人吉市矢岳町の「人吉民芸の村」において、八代市の児童養護施設、八代ナザレ園の子どもら50人が1泊2日のキャンプを企画。当署職員は、森林木工教室の指導を行いました。当日は昼から、あいにくの雨模様となったため、急きよ作業場所を宿泊施設に変更しての実施となりました。児童らは、手作りの木工スタンド作りに汗をかきながら悪戦苦闘！当署職員の丁寧なアドバイスを受けながら、すばらしいフォトスタンドが完成。夏休みのよい思い出となりました。



作品作りに夢中な子どもら＝熊本南部

くじゅう連山で保護啓発活動

【大分西部森林管理署】くじゅう連山では、毎年、入林者の多

い夏季に高山植物の盗採防止などの保護啓発を目的に、くじゅう地区高山植物保護対策協議会によるパトロールを行っています。同協議会は、地元自治体、環境省、森林管理署、警察署、九重の自然を守る会、九重・飯田高原観光協会など20の団体で組織。今年は約40人が参加し、牧ノ戸く久住山コース、長者原く雨ヶ池く坊がつるのコースなどの5ルートに別れパトロールを実施。高山植物の保護やゴミの持ち帰りなどを呼び掛けると



北村 むつえさん

私の生家はむささびが勝手口に水飲みに現れるような山麓にありました。

小学校から帰ると、友達と四季折々の野の花を摘んだり、木の実を拾ったりして豊かな自然の中で遊び、時には、頂

とともに、しおりを配布するなど啓発活動を行いました。



登山者に声をかけるパトロール員＝大分西部

上に立ち眼下に開ける玉名平野を見下ろしながら将来の事に夢を膨らませたりしました。高校生になると祖父の山仕事を手伝う事もあり、丁度その頃長兄の結婚が決まり、式の費用のために樹齢九十年程の杉の太木が売られ、その伐られる木を仰ぎ見て悲しかったのを覚えていました。

子供たちに、森の大切さを

伐採された跡には、祖父たちが杉の苗木を植え、この小さな木が長い年月を経て大木になるのだなあと、自然の営みの不思議さを子供心に感じました。

子育てが一段落したころ、

「八代植物友の会」に入会し、月に一度山へ出かけるようになり、山へ登るたびに、人々の足が山から遠のき、山が荒れて行く様子を見て残念でなりませんでした。

私の体験から、山の自然の中で遊び、自然の大切さを幼

い時にぜひ学んでほしいと思いをこめて、子供たちに山に関心をもってもらえるようにと、八代市立図書館で草花の写真展の開催を「友の会」に提案しました。会員たちが自らの写真を持ちより展示、予想以上のの人に観賞してもらいまし

た。その頃、八代市の「市報」で森林モニターのことを知り、少しでも子供たちと山をつなぐ糸口になれるのではない、すぐに応募しました。

また「八代植物友の会」では長年の懸案であった八峰山の国有林の一部を「上宮クスノキ天狗の森」と

命名。平成20年3月、森林管理局から出席を頂き設置式が行われ、一役員として準備に携われたのは幸運でした。この森で来年度、森林管理局主催の高校生を対象とした野外学習会が開かれると聞き、大いに期待しています。

(熊本県八代市在住)

10月1日～7日 全国労働衛生週間 9月は準備期間

平成22年度全国労働衛生週間が10月1日から7日まで全国一斉に行われます。当局においてもこの趣旨に沿い、積極的な衛生管理の推進を図るため「平成22年度九州森林管理局労働衛生週間実施要領」を定め取り組んでいるところです。

なお、9月は準備期間となっています。

各署等においても「平成22年度安全衛生実施方針書」の重点目標の一つである「『心とからだの健康』の保持増進」に向けた労働衛生活動の積極的な展開をお願いします。

スローガン

心の健康維持・増進
全員参加でメンタルヘルス

新任挨拶

どうぞよろしく



しろ かざと
城 風人

企画調整室長

年齢 35歳

出身地 広島県

抱負 九州勤務は初めてです。林業再生に向けた九州国有林の先進的な取り組みをさらに発展させるとともに、豊かで多様な森林を国民の財産として次世代に引き継いでいけるよう、皆さまと一緒に取り組んでいきたいと思います。よろしくお願ひします。

延岡ｸﾗﾌﾞ が下草刈り

【宮崎北部森林管理署】7月30日に、延岡市の浜山海岸林において、延岡中央ロータリークラブの会員約15人が参加し、0・



下草刈り取り組む参加者＝宮崎北部



去る8月6日に玉名の花火を家族3人で鑑賞してきた。この特徴は打ち上げ場所と観覧席が近く、目の前というより頭の上で花火が開く迫力にある。腹に響く音と空いっぱい広がる花火は圧巻である。

熊本県下でも7月から8月に

尾上小児童駒打ちを体験

【熊本森林管理署】森林環境教育を推進する一環として、熊本市立金峰山少年自然の家で、同市立尾ノ上小学校5年生140人を対象に、森林教室を行いました。12班に編制されたそれぞれに班に職員が講師となって指導。日ごろ食べているシイタケがどのように作られているのか学んだ児童らは皆驚いた様子でした。その後、児童らは駒打



枝打ちに挑戦する児童＝熊本

るお札を述べた後、注意事項の説明を行い、早速作業に取りかかりました。参加者は、早朝からの作業にもかかわらず、1日ほど伸びた力やなどの刈り払いに汗を流しながら取り組みました。なお、9月には2回目の下草刈りを行うこととしています。

花火

かけて熊本城で行われる「火の国まつり納涼花火大会」をはじめ各地で花火大会が催され、延べ100万人近くの人が楽しんでいる。

打ち上げ花火の大きさは、寸、尺であらわされ、2寸玉（2号玉）から4尺玉（40号玉）まであり、2尺玉は、直径8センチ、長さ50センチ、上端で直径約50

0センチ程度に広がる。

一瞬で輝き、消えていく花火は疲れやストレスを音と光で癒してくれる。私も、夜風に吹かれ花火を堪能し元気をもらっている。最後に上がったスターマインと呼ばれる連発の花火は、空一面の花火と音にみんなが歓声を上げ、私たちも光と音の余韻に浸りながら満足し、会場を後にした。

（治山課長 中村実敏）

自然観察会に60人

【熊本南部森林管理署】球磨郡五木村の仰烏帽子山登山口周辺において、平成22年度8月期の「人吉・球磨自然観察会」を開きました。約60人が参加する中、講師に環境省希少野生動植物種保存推進員の乙益正隆氏をお迎えし、「仰烏帽子山の麓で見られる植物について」と題し、観察を実施。参加者は、海拔約1000メートルの石灰岩地に生息する珍しい植物について、講師の説明に真剣にメモを取りながら学びました。また、当日は、好天にも恵まれ、アカシヨウビンをはじめとした野鳥の鳴き声が聞けたり、シカやイノシシなどの足跡が見られるなど、参加者は自然を満喫していました。



真剣にメモを取る参加者＝熊本南部

第3回実践公開・講座

32人「踏み台」作りに挑戦 ～のこぎりやキリに悪戦苦闘～

8月22日、監物台樹木園みどりの交流館において、平成22年度第3回実践・公開講座「クラフト（踏み台）」を開きました。当日は、大人から子どもまで32人の受講生が参加され、にぎやかな講座となりました。

はじめに、講師の九州森林インストラクター会村尾昭志さんが、「木材には木表と木裏があり乾燥したときに反り方が変わってくる」など木材の特性について説明。その後、参加者は一斉に作品作りに取りかかりました。のこぎりやキリ、ドライバー



など工具を使った作業に参加者の皆さんは悪戦苦闘しながらもみんな協力し合ってビス止め作業などを行っていました。最後に出来上がった踏み台に丁寧に鉋がけをして仕上げました。

参加者の頑張りもあり、予定よりも早く完成し、みなさん自分で作ったオリジナルの踏み台に満足された様子で、「次回はもっと複雑なものを作りたい!」と言われる参加者もあり、久しぶりにものをつくる楽しさを感じていただけたようで、みなさん作品を大事に抱えて帰って行かれました。

(担当川指導普及課)



協力してビス止めをする参加者



自分の作品に満足した様子の参加者たち

トサミズキは、春の鮮やかな黄色花の代表選手として花柄を垂下して花を咲かせ楽しませてくれます。残念ながら宮崎県えびの高原の固有種であるキリシマミズキは樹木園にありません。

トサミズキを書けば、当然にヒュウガミズキ、キリシマミズキについて書く必要があります。おおまかな違いを次に列挙します。

36 トサミズキ (ミズキ科)

ウカは自生地の名前ではありません。樹木園に入っすぐの東側にあります。

ヒュウガミズキ：自生は福岡県、岐阜県、石川県で日向（宮崎県）に自生はありません。花序は1〜3花で短く、オズイは花弁よりわずかに短く、葉脈は5〜7対となっています。

キリシマミズキ：キリシマのえびの高原の800〜1600m付近のみ自生しています。花序は5〜9対と長く、オズイは花弁より長く、葉脈は9〜10対となっています。

ヒュウガミズキは、ヒュウガミズキが自生する丹波地方を所領としていた「明智日向守光秀」に由来しているという説が有力です。トサミズキ、キリシマミズキは自生地の名前ですがヒュ



「暑いですね・・・!」夏定番の挨拶だが、今年の夏は違った▼6〜8月の今夏、日本の平均気温は平年より1.64度高く、統計開始以来最高を記録した。全国154ある観測地点でも61の地点で観測史上最高を記録。気象庁はこの夏の高温を「異常気象」として、原因を詳しく調べている▼熱中症で病院に搬送された人は4万人を突破、こちらは統計を取り始めて以降最悪のペースとなったようだ。「酷暑」という言葉がふさわしい今夏である▼涼を求め、阿蘇の外輪山へ車を走らせた。遮るものがない草原の日差しは厳しいが、市街地と比べると気温は5度程下がる。ススキは穂を開きマツムシソウやハギの花が夏の終わりを告げているようだ。悠大な自然の中では時間もゆっくりと流れ、心と体のリフレッシュには最適である▼10月1日〜7日は全国労働衛生週間が行われる。9月は準備期間である。平成22年度安全衛生実施方針書の重点目標の一つである「『心とからだ』の健康の保持増進」に向け、秋を探しに野山を散歩するのも悪くはない。(晴)